

海軍公報 第三千二百七十七號

昭和三十二年三月一日(火)
海軍大臣官房

○ 辭令

海軍技手 國松 房藏

(各通)

同 關野 八郎

同 内田 實

部内限奏任官待遇トス
海軍艦政本部勤務海軍技手 田村 武夫

横須賀海軍工廠附ヲ命ス
故海軍大尉疋田外茂母 疋田 さき

海軍藥劑學生ヲ命ス
昭和二勅令第五十七號ニ依リ金壹千九百圓ヲ給與ス

昭和二勅令第五十七號ニ依リ金壹千九百圓ヲ給與ス

大正八年勅令第三百七十一號ニ依リ金壹萬圓ヲ給與ス

故海軍特務大尉則内直正妻 則内 ヲウヲ

昭和二勅令第五十七號ニ依リ金壹千九百圓ヲ給與ス

昭和三十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金八百圓ヲ賜フ

故海軍特務少尉中尾芳人妻 中尾 ヨシコ

昭和三十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金參百圓ヲ賜フ

昭和三十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金參百圓ヲ賜フ

故海軍兵曹長三本盛光妻 三本 雪子

昭和三十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金貳百圓ヲ賜フ

昭和三十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金貳百圓ヲ賜フ

昭和三十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金貳百圓ヲ賜フ

(各) 故海軍一等兵曹池田光夫父 池田 庄吉

(通) 同 田村 源父 田村 源吉

昭和三十二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千貳百圓ヲ給與ス
昭和三十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金貳百圓ヲ賜フ

海軍公報 第三千二百七十七號 昭和三十二年三月一日

(通各) 故海軍二等兵曹石田正夫母 石田 トリ
同 高木定夫父 高木 壽和

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千圓ヲ給與ス
故海軍三等兵曹辻本 盈父 辻本 次郎七

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千圓ヲ給與ス
昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金六百圓

ヲ賜フ

故海軍三等兵曹宮本邦藏妻 宮本 千代子

同 川原和夫妻 川原 キヨコ

同 高田茂一父 高田 茂三郎

同 大坪秀雄父 大坪 惣兵衛

同 林 照夫父 林 順 登

同 板金次郎母 板金 キクヨ

同 小西實雄父 小西 作次

同 中田滿敏母 中田 かた

同 坂下芳郎父 坂下 梅太郎

同 荻原 實父 荻原 寅吉

同 池上良平父 池上 糸之助

同 村田 忠母 村田 ノブ

同 山畠利登父 山畠 平間

同 白石敏男父 白石 宗一

(通各)

同 川端松樹父 川端 市五郎
昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千圓ヲ給與ス(以
上諸海軍省)

○ 雜 款

○ 試驗問題發送

第四十四期 操縱練習生(採用試驗問題
第四十六、七期普通科整備術練習生)採用試驗問題
右二月二十六日左記ノ通發送濟未着ニシテ必要ノ向ハ
最寄海軍人事部若ハ霞ヶ浦航空隊ニ通知セラレ度

記

一、聯合試驗施行ノモノハ各海軍人事部長及各要港部
參謀長(舞鶴、馬公ハ防備隊司令)宛送付

二、臨時所要ノ分トシテ單獨試驗問題若干部數前記諸
へ送付

三、單獨試驗施行豫定ノ各部(驅逐隊ハ各驅逐艦別)
ニハ直送
(霞ヶ浦海軍航空隊)

退役海軍少佐正六位勳六等大森金二郎二月二十六
日死去、昨二十八日東京市杉並區阿佐ヶ谷六ノ一
八四自宅ニ於テ基督教式ニ依リ告別式執行セリ

海軍公報 第三千二百七十八號

昭和十三年三月二日(水)
海軍大臣官房

○令 達

官房第一〇〇四號
鐘淵紡績株式會社ヨリ寄贈ノ内火艇ヲ雜役船ニ編入シ
其ノ船種、船名、所屬等ヲ左ノ通定ム
昭和十三年三月一日
海軍大臣

船種	船名	所屬	別定數	寄贈者
内火艇 (十米)	報國第十號 (鐘紡號)	旅順要港部 (天津在勤武官供用)	臨時 附屬	神戸市林田區御崎町二ノ 鐘淵紡績株式會社 社長 津田信吾

○辭 令

厚澤銀次郎
横須賀海軍病院ニ於ケル義眼製作業務ヲ囑託ス
但シ報酬年額百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト
ス(十三年海軍省)

○雜 款

歸朝ヲ命ス(二十六日同)

海軍技手 大羽 佐一

○赴任
米國在勤帝國大使館附武官輔佐官海軍中佐田口太郎三
月九日午後零時三十分東京驛發同日橫濱出帆ノ太平洋丸
ニテ赴任ノ豫定

「ソ」聯邦在勤帝國大使館附武官輔佐官海軍少佐白井
淑郎來三月四日午前十時三十分東京驛發同六日敦賀出
帆ノ「サイベリヤ」丸ニテ赴任ノ豫定

後備役海軍中佐從五位勳四等赤澤堅三郎二月二十
八日卒去、明後四日午後二時高松市松島町三三五
自宅ニ於テ佛式ニ依リ葬儀執行

海軍公報

第三千二百七十九號

昭和十三年三月三日(木)
海軍大臣官房

○通牒

官房第一〇三六號

昭和十三年三月三日

海軍省副官

在京公爵以上諸官殿

皇后陛下御誕辰ニ付拜賀ノ件申進

首題ニ關シ式部長官ヨリ左記ノ通知有之候條御了知相成度

記

式部送第二一二號

昭和十三年三月一日

式部長官子爵 松平慶民

海軍大臣 米内光政殿

來六日皇后陛下御誕辰ノ處拜賀並參賀ノ儀共御取止メ相成候條及御通知候

海軍公報 第三千二百七十九號 昭和十三年三月三日



海軍公報 第三千二百八十號

海軍大臣官房

昭和十三年三月五日(土)

○ 辭令

○昭和十三年三月五日

海軍一等看護兵曹勳七等 染谷 山郎

任海軍技手

給四級俸

任海軍技手

給五級俸

任海軍技手

給月俸七拾圓

(各通)

陸軍工兵曹長勳七等

任海軍技手

給七級俸

任海軍技手

給月俸六拾圓

任海軍技手

給八級俸

海軍軍醫學校附ヲ命ス

(各通)

吳海軍建築部勤務ヲ命ス

水路部附ヲ命ス

(各通)

佐世保海軍建築部勤務ヲ命ス

陸軍工兵伍長

山下 下 觀
寺畑 俊夫

倉上 國富

海軍技手 染谷 山郎

同 今沢 豊正

同 多田 武

同 加藤 元柳

同 矢嶋 憲三

同 宮本 芳英

同 佐溝 正三郎

同 長井 謙次

同 木野 健男

海軍公報 第三千二百八十號 昭和十三年三月五日

(各通)

吳海軍建築部勤務ヲ命ス

同 山下 魏
同 寺畑 俊夫

水路部附ヲ命ス(以上同海軍省)

同 倉上 國富

○ 雜 款

昨四日公報發行セズ

海軍公報 第三千二百八十一號

昭和十三年三月七日(月)
海軍大臣官房

○令 達

官房第一一〇七號

支那事變中軍人軍屬ニシテ轉勤ヲ命ゼラレタルモノ至
急赴任ヲ要スルトキハ舊所轄長ハ航空機ニ依ル旅行ヲ
命ズルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ旅客運賃ノ實
費ヲ支給ス

舊所轄長ハ前項ニ依リ航空旅行ヲ命ジタルトキハ其ノ
事由、旅行年月日、區間及其ノ運賃並ニ旅行者ノ官氏
名ヲ報告スベシ

昭和十三年三月七日

海 軍 大 臣

○通 牒

軍務一第三七號

昭和十三年三月四日

海軍省軍務局長

各鎮守府 參謀長殿
各要港部

雜役船ノ現在數並ニ希望數ノ件照會

首題ノ件左記ニ依リ四月末日迄ニ取纏メ送付相成度

記

一、船種別ハ別表記載ノ區分ニ依ル、同區分ニ適合セ
ザルモノハ最モ近キ船種ニ掲記シ要スレバ記事欄ニ
説明ヲ加フルモノトス

二、希望數ハ所要最少限ニ止メ新造並ニ維持上成ルベ
ク經濟的ナル船種ヲ選定スルモノトス

三、定數改正ヲ希望スルモノニ付テハ其ノ事由ヲ別紙
ニ記載添付ノコト
(別表一葉添)

○辭 令

海軍軍醫學校防疫學教授助手ヲ囑託ス

八 須 光 平

但シ報酬月額六十五圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ
待遇セラル(註)海軍軍醫學校)

○ 雜 款

○ 出發

獨國 出張 海軍機關少佐 和田 五郎

三月三十一日
午後四時
横濱發

氷川丸

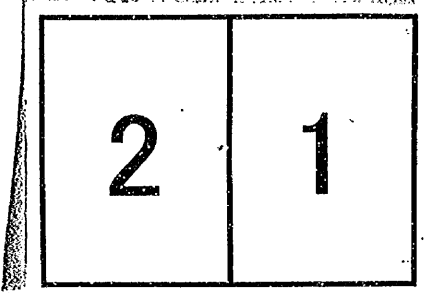
○ 滯在地變更

待命海軍少佐竹内猶勝ハ佐世保ヨリ吳へ滯在地變更ノ
義三月五日認許セラレタリ

後備役海軍中佐從五位勳四等收瀨忠三本月四日佐
賀縣小城郡三日月村三ツ島四九〇自宅ニ於テ卒去、
昨六日葬儀執行セリ

(別表一葉添)

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	雑役船 現在数並に 希望数一覧表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

海軍公報 第三千二百八十二號

昭和十三年三月九日(水)
海軍大臣官房

○令 達

官房第一一五三號

大正十五年官房第二〇六九號中左ノ通改正ス

昭和十三年三月九日

海軍大臣

第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三、海軍給與令第八十一條第一號ニ依リ航空機ニ搭

乗スル准士官以上ニ糧食ヲ給スル場合ハ必要ニ應

ジ前各號ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

(参照) 大正十五年官房第二〇六九號ハ航空機搭乗者ニ

給與スル糧食ノ件ナリ(會計法規中卷一七四頁)

○辭 令

故海軍少佐菊田三郎妻 菊田 治子

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金貳千參百圓ヲ給與ス

昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金五百圓

ヲ賜フ

故海軍大尉田中民至父 田中 源三

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千九百圓ヲ給與ス

大正八年勅令第三百七十一號ニ依リ金壹萬圓ヲ給與ス

故海軍一等兵曹今村熊藏兄 今村 友吉

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千二百圓ヲ給與ス

昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金貳百圓

ヲ賜フ

故海軍三等兵曹矢野武壽父 矢野 兼喜

同 山中良吉母 山中 繁尾

同 末延政藏父 末延 虎一

同 川原 實父 川原 休助

同 竹村平太郎母 竹村 キト

同 泉溪式以母 泉溪 ヤエ

同 吉原勝志父 吉原 二次郎

同 谷口秀吉妻 谷口 サトエ

同 兼田兼成父 兼田 與治郎

(通各)

海軍公報 第三千二百八十二號 昭和十三年三月九日

(通各)

同	濱田儀盛母	濱田 イト
同	山下政雄父	山下 熊次郎
同	栗崎美吉妻	栗崎 フミコ
同	長野因之父	長野 佐市
同	本田穂吉父	本田 榮太郎
同	井上源太郎父	井上若右衛門
同	故海軍三等機關兵曹北村憲一父	北村 峯吉
同	昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千圓ヲ給與ス	
同	故海軍一等水兵勝部一雄父	勝部 次太郎
同	三阪種男父	三阪 兼松
同	松本光一郎父	松本 陶一
同	竹本久太郎父	竹本 彦三郎
同	河本 昇母	河本 乙吉
同	廣瀬益二父	廣瀬 庄吉
同	澤野勇一父	澤野 元七
同	愛知唯雄父	愛知 鎌治
同	藤井 實母	藤井 ヒナ
同	武田正晴父	武田 清太郎
同	長友福一父	長友 榮一
同	吉田忠友父	吉田 長吉
同	小松政雄父	小松 太次郎

(通各)

同	昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金九百圓ヲ給與ス	
同	故海軍二等水兵山本次郎父	山本 勘助
同	故海軍二等機關兵淺野九一父	淺野 伊六
同	昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金九百圓ヲ給與ス	
同	昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依リ特ニ金五百圓ヲ賜フ	
同	故海軍一等機關兵松野貞三郎父	松野 外三郎
同	故海軍一等看護兵和泉五月父	和泉 與藏
同	故海軍一等水兵三田村駒治祖母	三田村 みか
同	阿部良平父	阿部 友四郎
同	阿蘇野長十郎父	阿蘇野 萬助
同	燕 岩雄父	燕 喜代助
同	酒井藤好母	酒井 シヲ
同	道津才三郎父	道津喜左工門
同	山平武士父	山平 休次郎
同	三好鐵雄母	三好 キク
同	昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金九百圓ヲ給與ス	
同	(以上 海軍省)	
同	海軍航空本部ニ於ケル航空兵器造修ニ關スル業務ヲ囑託ス	篠塚 文次郎

但シ報酬月額金七拾五圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ待遇セラル(請海軍航空本部)

○ 雜 款

○ 出發

獨
國
駐
在

海軍軍醫少佐 富田 東助

三月廿五日午前十一時
五分 東京發
三月廿六日 神戸發

照國丸

○ 昨八日公報發行セズ

海軍公報 第三千二百八十二號 昭和十三年三月九日

海軍公報 第三千二百八十三號

昭和十三年三月十日(木)
海軍大臣官房

○通牒

海人第二號ノ五〇

昭和十三年三月十日

海軍省人事局長

海軍條例
則登載

關係各廳長殿

死者ニ對スル感狀取扱ニ關スル件通牒

戰時又ハ事變ニ際シ艦船部隊等ニ感狀ヲ授與セラレタル場合右所屬各員中ノ死者ニ對シテハ感狀寫ヲ其ノ廳長ニ於テ遺族ニ送付相成様取計ハレ度

○辭令

第五課勤務ヲ命ス(海軍水路部)

囑 託 福富 孝治

第二課勤務ヲ命ス

海軍少佐 内田 耕三

第二課勤務ヲ命ス

海軍技手 小川 兼三郎

海軍公報 第三千二百八十三號 昭和十三年三月十日

一〇五

(各通)

第五課勤務ヲ命ス(以上詰同)

同 加藤 元柳
同 倉上 國富

第五課勤務ヲ命ス(詰同)

海軍技師 松崎 卓一

○雜款

○命名式舉行

左記ニヨリ報國號飛行機ノ命名式ヲ舉行セラル

一、報國號飛行機及番號名稱機種及献納者

報國號	名稱	機種	種	献納者
第一八六號	威北號	九六式 艦上爆撃機		威鏡北道々民
二、日時	(開式時刻) 三月十八日午前十時			
三、場所	朝鮮威鏡北道清津府外 清津飛行場 (海軍省 副官)			

海軍少將從四位勳三等大島乾四郎昨九日卒去、明
十一日東京市世田谷區玉川奧澤町淨真寺(九品佛)
ニ於テ午後零時三十分ヨリ佛式ニ依リ葬儀、午後
一時ヨリ同二時迄告別式執行

海軍機關中佐正六位勳六等鈴木重初昨九日死去、
明十一日午後二時ヨリ同三時迄東京市淺草區永住
町二龍福院ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行

海軍公報 第三千二百八十四號

昭和十三年三月十一日(金)
海軍大臣官房

○通牒

軍需衣第五〇號

昭和十三年三月十日

海軍省軍需局

關係各廳御中

靴文數改正ノ件通知

本件ニ關シテハ昭和十年軍需衣第九二號ノ八(會計法規中卷一六〇頁參照)ヲ以テ通牒相成先ヅ以テ下士官兵用半靴及陸戰隊用編上靴ノミニ付改正文數ノ呼稱ヲ實施中ニ有之候處昭和十三年四月一日ヨリ靴類全部ニ涉リ文數ノ呼稱ヲ別表ノ通改ムルコトト相成候條御了知相成度

(別表一葉添)

○辭令

小野 十生

横須賀海兵團ニ於ケル劍道教師ヲ囑託ス
但シ報酬年額六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
(海軍省)

海軍少將 中山 道源

海軍艦政本部總務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

海軍少佐 佐藤 貫造

廣海軍工廠敎習所敎務ヲ囑託ス(以上同)

海軍公報 第三千二百八十四號 昭和十三年三月十一日

(別表添)一〇七

(別表)

考 備	底 長		昭和十年九月一日 ヨリ實施中	昭和十三年四月一日 ヨリ改正
	曲 尺	糧		
一、昭和十年九月一日ヨリ實施中ノ半靴、陸戰隊用編上靴ノ文數呼稱ハ參考ノ爲掲記セルモノナリ 二、昭和十三年四月一日ヨリ改正ノモノノ内洋字ハ現在ノ文數呼稱ヲ示ス	一〇・〇	三〇・三	十二文半	
	九・八〇	二九・七	十二文	
	九・六〇	二九・一	十一文半	12.5
	九・四〇	二八・五	十一文	12.0
	九・二〇	二七・九	十文七分	11.5
	九・〇	二七・三	十文半	
	八・八〇	二六・七	十文三分	11.0
	八・五三	二五・九	十文	10.5
	八・二六	二五・一	九文七分	
	八・〇	二四・三	九文半	10.0
			航空靴、同夏靴	半長靴、整備靴
			特製防寒長靴	艇靴、烹炊靴

(昭和十三年三月十一日公報別紙)

海軍公報 第三千二百八十五號

昭和十三年三月十二日(土)
海軍大臣官房

○ 雜 款

(補田)

○報國號飛行機命名式舉行
左記ニ依リ報國號飛行機ノ命名式ヲ舉行セラル

一、報國號飛行機番號名稱機種及獻納者

機 種	報 國 號	獻 納 者
九六式艦上戦闘機	報國第一八九號 (成南號)	朝鮮咸鏡南道々民

二、日 時 (開式時刻) 三月十五日午前十時

三、場 所 朝鮮咸鏡南道本宮飛行場
(海 軍 省 副 官)

○振替貯金口座番號表中追加
海軍省經理局ノ項ノ次ニ

海軍省獻金係 同 一四二、八三二
ヲ加フ
(海 軍 省 經 理 局)

(會計法規類集下卷七〇七頁参照)

海軍公報 第三千二百八十五號 昭和十三年三月十二日

○赴任
土耳其國在勤帝國大使館附武官兼「ルーマニア」國在勤帝國公使館附武官海軍中佐石川 信來三月二十五日午後三時東京驛發上海經由赴任ノ豫定

支那事變戰死者故海軍少佐山之内 醇外十九名ノ合同海軍葬儀ヲ來十六日午後二時佐世保凱旋記念館ニ於テ佛式ニ依リ執行

海軍公報

第三千二百八十六號

昭和十三年三月十四日(月)
海軍大臣官房

○ 雜 款

○命名式舉行
左記ニ依リ各報國號飛行機ノ命名式ヲ舉行セラル

一、飛行機番號名稱其ノ他

報國號番號	名 稱	機 種	獻 納 者
第一六五號	南洋真珠號	九五式水上偵察機	アラフヲ海田漁真珠具探取全日本船主並ニ船員一同
第一六八號	釜石號	同 右	市制施行記念軍用機報國釜石號獻納期成會
第一八五號	青年團號	九六式艦上戦闘機	大日本聯合青年團
第二〇五號	第二青年團號	九六式陸上攻撃機	

二、日 時 (開式時刻)
三月十七日(木曜) 午後一時

三、場 所
逕信省東京飛行場(東京市蒲田區羽田江戶見町)
(海軍省副官)

海軍中佐從五位勳五等上原徳次郎本月十日卒去、同十二日神奈川縣三浦郡逗子町逗子一一七三自宅ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行セリ

退役海軍機關少佐從六位勳六等三谷三九郎本月十一日死去、昨十三日高松市宮脇町四〇七自宅ニ於テ佛式ニ依リ葬儀執行セリ

海軍公報

第三千二百八十七號

昭和十三年三月十五日(火)

海軍大臣官房

○令 達

官房第一二五九號

支那事變中海軍工務規則第五條ノ規定ニ拘ラズ海軍工
作應總務部ニ統制工業係ヲ置クコトヲ得

昭和十三年三月十五日

海軍大臣

○通 牒

官房第四六七號ノ二

昭和十三年三月十五日

海軍省副官

**海軍諸例
則登載**

關係各廳長殿

飛行機ヲ搭載スル外國軍艦ノ蘭領印度、
「スリナム」及「キユラサオ」管内入
航ニ關スル規定及蘭領印度外國軍艦入國
令施行細則解釋ノ件通知

首題ノ件ニ關シ官房第四六七號ヲ以テ通知致候處飛行

機ヲ搭載スル外國軍艦ノ解釋ニ關シ外務省ヨリ左記要
旨ノ通牒有之候

記

蘭領植民地ニ於ケル外國軍艦入港ニ關スル勅令ハ單ニ
飛行機ヲ搭載スル外國軍艦ニノミ適用セララルガ如ク
解釋セララル處同勅令ノ蘭領印度ニ於ケル施行規則第
一條ニ於テハ「外國軍艦トハ外觀上軍艦タル特徵ヲ有
スル凡テノ船舶ヲ謂フ」トノ規定ヲ設ケ居リ此ノ間聊
カ疑義ヲ生ズル嫌アルヲ以テ當時在蘭帝國公使ヲシテ
蘭國政府ニ照會セシメ置タル處同國政府ハ同勅令ハ飛
行機ヲ搭載スル外國軍艦ノミナラズ一般外國軍艦ニ適
用アリトノ見解ヲ有シ居ル旨回答有之更ニ今般在京和
蘭公使ヨリモ右ト同趣旨ノ通牒有之候

(二月三十一日海軍公報號外參照)

海人第八六號

昭和十三年三月十五日

海軍省人事局長

海軍公報 第三千二百八十七號

昭和十三年三月十五日

一一三

各所轄長殿

轉科任用者ノ俸給ニ關スル件申進

本日附整備科ニ轉科任用セラレタル准士官ニ對シテハ別ニ辭令ヲ用ヒズシテ從前ノ級俸ヲ賜給セラレタルモノト御了知相成度依命

○ 辭 令

○昭和十三年三月十五日

任海軍技手

宮武 盛之

給月俸七拾圓

任海軍技手

澤 田 清

給月俸六拾圓

任海軍技手

土 肥 守

給九級俸

任海軍技手

金田啓之助

給十級俸

海軍技手 宮武 盛之

同 澤 田 清

同 土 肥 守

同 金田啓之助

(各通)

舞鶴要港部勤務ヲ命ス(海軍省)

○ 雜 款

海軍中佐正六位勳五等大坪信義本月十日外洋飛行中遭難、同十一日殉職、本十五日午後二時大村海軍航空隊ニ於テ神式ニ依リ海軍葬儀執行

航空事故ニ依リ殉職セル海軍省事務屬託ニシテ東京朝日新聞社飛行士見須慎一、通信士内野二三ノ朝日新聞社々葬ヲ本十五日午後零時三十分ヨリ同一時三十分迄神式ニ依リ青山齋場ニ於テ執行、同一時ヨリ三時迄告別式執行

海軍公報 第三千二百八十八號

昭和十三年三月十六日(水)
海軍大臣官房

○通牒

官房第一三〇三號

昭和十三年三月十六日

海軍次官

各廳長殿

國民精神總動員天長節奉祝ニ關スル件通牒
首題ノ件次官會議ニ於テ申合ニ付別紙ノ通内閣書記官
長ヨリ通牒有之候條實施方可然取計相成度

(別紙)

内閣閣甲第四二號

昭和十三年三月十日

内閣書記官長 風見 章

海軍次官 山本五十六殿

國民精神總動員天長節奉祝ニ關スル件

本目次官會議ニ於テ國民精神總動員天長節奉祝要綱別
紙ノ通申合有之候條實施方可然御配意相煩度

追テ貴管下各廳ヘモ通達方可然御取計相成度

國民精神總動員天長節奉祝要綱

一、趣旨

事變下ノ天長節ヲ迎フルニ當リ聖壽ノ無窮ヲ壽ギ皇
室ノ御鴻恩ヲ欽仰シ奉ルト共ニ愈々忠誠ノ念ヲ新ニ
シ、舉國一致堅忍持久時艱ヲ克服シ以テ皇運ヲ扶翼
シ奉リ國威ヲ中外ニ宣揚スル國民ノ覺悟ヲ堅マルノ
趣旨ノ下ニ奉祝ヲ行フコト

二、實施方法

- (一) 官廳學校等ニ於テ奉拜式又ハ祝賀式ヲ行フニ當
リテハ特ニ前項趣旨ノ徹底ヲ圖ルニ努ムルコト
從來式ヲ舉行セザル向ニアリテハ右ニ準ズベキ方
法ヲ講ズルコト
- (二) 市區町村ニ在リテハ市區町村民ノタメ神社、學
校、公會堂等適當ナル場所ニ於テ祝賀ノ方法ヲ講
ジテ前項ノ趣旨ノ徹底ヲ圖ルコト
- (三) 當日午前九時ヲ期シ「天長節奉祝ノ時間」ヲ設

ケ前各號ノ式典ニ參列セザル一般國民ハ各家庭共
他ノ場所ニ於テ夫々宮城遙拜ヲ行フコト
此ノ爲同時刻ニハ汽笛、サイレン、鐘等ヲ用ヒ適
當ナル周知方法ヲ講ズルコト
尙ラテオハ同時刻ニ「天長節奉祝ノ時間」ノ放送
ヲ行フコト

○ 辭 令

(各通) 海軍書記 内藤 義比
海軍技手 淺原 利平

給一級俸(海軍省)

峯村 辰三

軍令部ニ於ケル編纂事務ヲ囑託ス

但シ報酬月額六拾五圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ
待遇セラル(海軍省令部)

○ 雜 款

○郵便物閉塞交換開始
特務艦早鞆今般北米方面行動中同艦ト横濱郵便局間ニ
軍艦郵便ノ取扱ヲ行ハル
(海軍省副官)

豫備役海軍軍醫中尉從七位勳六等鈴木常夫本月二
日埼玉縣北足立郡吹上町大字吹上二一六八自宅ニ
於テ死去セリ

囑託田中行義ハ二月二十六日死去セリ

海軍公報 第三千二百八十九號

昭和十三年三月十七日(木)

海軍大臣官房

○辭令

梅田 故海軍中佐新田慎一妻 新田 千代子
昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金貳千八百圓ヲ給與ス
大正八年勅令第三百七十一號ニ依リ金壹萬圓ヲ給與ス

(各通)

故海軍大尉梅林孝次父 梅林 行運
同 山内達雄母 山内 ヤス

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千九百圓ヲ給與ス
大正八年勅令第三百七十一號ニ依リ金壹萬圓ヲ給與ス
故海軍三等航空兵曹田熊哲夫父

(各通)

同 田熊 正一
同 城田忠節父 城田 忠太郎

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千圓ヲ給與ス
大正八年勅令第三百七十一號ニ依リ金壹千圓ヲ給與ス
故海軍三等兵曹石川 清父 石川 鹿雄

同 石川 悟父 石川 友平

(通各)

同 瀨口子一郎子 瀨口 房子
同 上道 靜父 上道 靜夫
同 上田金次郎父 上田 律三
同 島崎義治父 島崎 義太郎
同 富尾幸一郎兄 富尾 悦治
同 村田好介妻 村田 智子
故海軍三等機關兵曹矢口銀藏妻 矢口 ヲゲン

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千圓ヲ給與ス

(通各)

同 故海軍一等水兵大原吉兼母 大原 ゆか
同 寺井三郎父 寺井 良五郎
同 川崎貞一父 川崎 金吉
同 横井 茂母 横井 ちやう
同 高木武士父 高木 榮三郎
故海軍二等水兵福田芳雄父 福田 六三郎
故海軍二等機關兵白石保一父 白石 光五郎
昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金九百圓ヲ給與ス
海軍航空廠飛行機部ニ於ケル業務囑託
田中 十三

兼テ海軍航空廠總務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス(以上
三三海軍省)

海軍技手 伊東 猛
第四課勤務ヲ命ス(三三水路部)

○ 雜 款

後備役海軍軍醫少將從四位勳三等福田 了昨十六
日卒去、明十八日午後三時兵庫縣武庫郡住吉村梅
ノ木八八一自宅ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行

海軍公報 第三千二百九十號

昭和十三年三月十八日(金)
海軍大臣官房

○通牒

經契第三號ノ二〇一〇

昭和十二年十二月一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

昭和十二年十二月以降海軍航空機用車輪々
體及尾輪購買契約ニ關スル通牒

首題ノ件別紙ノ通契約致候條右ニ依リ處理相成度

(別紙ハ所要ノ向ニ配付ス)

經契第三號ノ二〇一二

昭和十二年十二月三十一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

昭和十三年一月以降海軍航空機用タイヤ、
内袋購買契約ニ關スル件通牒

首題ノ件別紙ノ通契約致候條右ニ依リ處理相成度
(別紙ハ所要ノ向ニ配付ス)

○辭令

依願免本官

海軍技手 古川 英雄

海軍機關大佐 阿久津 國作

横須賀海軍工廠工員教育業務囑託ヲ解ク

海軍機關特務大尉 石坂 定次

横須賀海軍工廠ニ於ケル事變關係造機業務囑託ヲ解ク
(以上皆海軍省)

海軍公報 第三千二百九十一號

昭和十三年三月十九日(土)
海軍大臣官房

○令達

官房第一三六〇號
來二十一日春季皇靈祭同神殿祭ニ付在京諸官ハ當日左ノ通心得ベシ

昭和十三年三月十九日

海軍大臣

- 一 午前九時三十分賢所參集所ニ參集スベキ者
親任官同待遇、勅任官同待遇
- 一 正午ヨリ午後一時迄ニ參拜スベキ者
奏任官同待遇並ニ判任官以下ニシテ位勳ヲ有スル者
- 一 午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スベキ者
位勳ヲ有セザル判任官同待遇
服裝 正裝、大禮服

○雜款

○振替貯金口座番號表中追加
滿洲海軍特設機關ノ項ノ次ニ

第三艦隊酒保物品部 福岡 三四、二六〇

海軍省經理局

(會計法規類集下卷七〇七頁參照)

海軍公報 第三千二百九十二號

昭和十三年三月二十二日(火)
海軍大臣官房

○通牒

航本第一二八三號

海軍造船機造兵主要材料試驗檢査規則〔航空機之部(假規格)〕中左ノ通改正ス

昭和十三年三月十六日

海軍航空本部長

- 一、假規14燃料タンク用アルミニウム板規格2.製造ノ項)中「...99.6%...」ヲ「...99.5%...」ニ改メ、末尾ニ「但シ經歷並ニ成分明瞭ニシテ實用上差支ナキ古地金ハ之ヲ使用スルコトヲ得」ヲ加ヘ、同項(二)板ノ成分表中「錳(%) 0.15」ヲ「錳(%) 0.25」ニ、同項(四)中「...剝離シ得ル...」ヲ「...除去シ得ル...」ニ改メ3.寸法及公差ノ項ヲ次ノ如ク改ム
- 3. 寸法及公差
板ノ厚及幅ノ標準寸法並ニ厚サノ公差ハ次表ニ依ル

厚(mm)	幅(mm)				
	600以下	800以下	1000以下	1250以下	1500以下
0.4米級	±0.05				
0.4	±0.05	±0.07	±0.07	±0.08	
0.5	±0.06	±0.07	±0.07	±0.08	
0.6	±0.06	±0.07	±0.08	±0.10	
0.7	±0.06	±0.07	±0.08	±0.10	
0.8	±0.07	±0.08	±0.08	±0.10	±0.12
0.9	±0.07	±0.08	±0.08	±0.10	±0.12
1.0	±0.07	±0.08	±0.08	±0.12	±0.15
1.2	±0.08	±0.08	±0.10	±0.12	±0.15
1.4	±0.08	±0.08	±0.10	±0.12	±0.15
1.6	±0.08	±0.08	±0.10	±0.12	±0.15
1.8	±0.08	±0.08	±0.12	±0.12	±0.15
2.0	±0.10	±0.10	±0.12	±0.12	±0.17
2.3	±0.10	±0.10	±0.12	±0.15	±0.17

別紙ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

○ 辭令

正七位勳六等 介地 角重
東京海軍通信隊大和田分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
但シ報酬年額九百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇
トス(海軍省)

○ 雜款

○進水
軍艦筑摩三月十九日三菱重工業株式會社長崎造船所ニ
於テ進水セリ

鳥海乘組海軍大尉正七位鈴木正治、海軍航空兵曹
長小林猛男、海軍三等航空兵曹小池春義三月十日
飛行訓練中遭難、同十七日殉職、熊野乘組海軍航
空兵曹長山本岩雄、海軍二等航空兵曹岡本定五三
月十三日飛行訓練中遭難、同十九日殉職、來四月
二日午後三時佐世保凱旋記念館ニ於テ佛式ニ依リ
合同海軍葬儀執行

2.6	±0.10	±0.10	±0.12	±0.15	±0.17
2.9	±0.12	±0.12	±0.12	±0.15	±0.20
3.2	±0.12	±0.12	±0.12	±0.15	±0.20
3.5	±0.12	±0.12	±0.15	±0.18	±0.25
4.0	±0.12	±0.12	±0.15	±0.18	±0.25
5.0以上	厚3%	±4%	±4%	±5%	±6%

同規格4.試驗ノ項中(二)屈曲試驗ヲ次ノ如ク改ム

(一) 屈曲試驗

第五項ニ依リ撰出セル試料ヨリ仕上タルB二號試
験片〔海軍造船機造兵主要材料試驗検査規則
(航空機之部)第二章附圖(三)]ヲ試驗ニ供シ180
度屈曲スルモ屈曲部ニ龜裂ヲ生ゼズ且其ノ屈曲部
が粗面ヲ呈セザルコトヲ要ス但シ2程以上ノ板ニ
在リテハ本試驗ヲ行ハズ

種 類	記 號	内 側 半 徑
甲	A H	厚サノ4倍
乙	A S	密 著

一、「假規101撓ゴム管」ノ次ニ別紙「假規102アルミニ
ウム青銅鑄造品」ヲ加フ

(號外三頁添)

海軍公報 號外

昭和十三年三月二十二日(火)
海軍大臣官房

○ 雜 款

○ 正 誤



海軍會計法規類集中左ノ通訂正ヲ要ス

(海 軍 省 經 理 局)

同	同	同	同	同	上	卷				
三〇	五一	五一	三六	三一	一四	頁				
書式	一三	一二	八	八	四	行				
表	一	五	表	一	一	誤				
上段	施行	審査	取扱順序	不明	下士官	正				
施行	旅行	審査	取扱順序	(何店)	下士官					
旅行	旅行	抄録	抄録		官房第					
同	同	同	同	同	中	卷				
五八	二五	同	二四	同	一八	頁				
一一	一一	二二	一八	一八	三	行				
同	不明	侍ニ	侍從	第九十七條	三八八號	誤				
分隊長	一〇、五〇〇	侍ニ	侍從	同上ヲ一 線下ダ ル	二八八號	正				

海軍公報 號外

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四ノ七三	四四三	四一七	三九二	三八八	三六五	三二二	三二九	一四八	一四三	九九	九六ノ四	六四	六〇ノ三
一三	四	一六	九	別表第四三	一	九	四	三七	二	一六	二八	五	四
明和	不明	本更津	旅費減額	不明	相續入	同	同	不明	ララネル	五個	一個	食料品	不明
昭和	一一四〇	本更津	旅費減額	四〇一〇〇	相續入	扶助義務	以前	百十瓦	フラネル	六個	一組	糧食品	副長
同	同	同	同	同	同	下	同	同	同	同	同	同	同
三四八	三三〇	一八六	一八二	一八一	一〇三	一九三	一二七	一〇八	六四三	五九七	五七〇	五〇八	四八二
六	一四	一八	一六	一四	三	一九	備考五	六	二	二一	三	二一	一四
意味	不明	モモノトス	供ニ	舞鶴	同	同	同	不明	露船	同	同	不明	處理事項ノ
意味	乙、丙	モノトス	共ニ	舞鶴	(各種)	スポーツ	科目計上	工具旅費	艦船	現金	一部	車馬賃	處理事項ノ

海軍公報 號外

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
書式 五八	六四六	五八〇	五七九	同	五四五	四八八	四七七	四六七	四二二	四一〇	三六八	三四八
七	四	一三	二一	一三	五	二	三	五	一	三	柱	一
同	不明	仍徒前ノ	不明	關東州	稅納地	不明	稱スル	以	同	不明	契約	一
(裝備)	シタル郵便物	仍從前ノ	其ノ他ノ	關東州	納稅地	又ハ	稱スルハ	以テ	(寺院)	臺帳	建築工務	二

三

海軍公報 第三千二百九十三號

昭和十三年三月二十三日(水)
海軍大臣官房

○ 辭令

海軍技手 藤田 忠男

英國へ出張ヲ命ス(海軍省)

○ 雜款

○電話番號變更

侍從武官海軍少將遠藤喜一宅(目黒區駒場町八六一)

澁谷 五五八番

海軍教授兼海軍書記官榎本重治宅(澁谷區松濤町五)

澁谷 七二八番

海軍大佐從五位勳三等有田 貢本月二十日卒去、
同二十一日佐世保凱旋記念館ニ於テ佛式ニ依リ告
別式執行セリ

海軍公報 第三千二百九十三號 昭和十三年三月二十三日

海軍公報 第三千二百九十四號

昭和十三年三月二十四日(木)
海軍大臣官房

○通牒

官房第一四二二號ノ二

昭和十三年三月二十四日

海軍省副官

各鎮、各要參謀長
駐滿海軍部參謀長
第一、二艦隊參謀長 殿

海軍記念日部外講演ニ關スル件申進

本年五月二十七日海軍記念日ニ於ケル部外講演ニ關シテハ別紙ノ通海軍次官ヨリ關係各省次官宛照會相成候ニ付テハ左記ニヨリ講演官ヲ派遣セシメラルル様致度

記

一、講演官ノ派遣ハ別表ニ依ル、但シ適當ナル講演官ヲ派遣スルタメ要スレバ派遣區分ニ依ルコトナク各講演官派遣應ニ於テ彼此融通シ又ハ各地所在海軍監督官、艦隊又ハ艦船ト協議ノ上講演官ヲ派遣スルコト
二、講演官ニハ成ルベク適任者ヲ選定スベキハ勿論ナ

ルモ尙出身地又ハ出身校ヲモ考慮スルコト

三、要スレバ講演地附近ノ適當ナル離現役軍人ニ講演ヲ依頼スルヲ可トスルコトアルベキコト又各地海軍有終會支部及人事部囑託、地方人事部囑託タル在郷士官ト連絡シ之ヲ利用スルコト

四、講演ノ題目及要領ハ主催者ノ希望、聽講者ノ種類、講演官ノ經歷等ニ依リ講演官ニ於テ適宜選定スルコト

但シ中學校以上ニアリテハ配屬陸軍將校ノ講演ト重複セザル如ク豫メ協議スルコト

五、講演參考資料ハ追テ送付スベキモ時局ニ關スル講演、支那事變ニ關スル講演ノ要望多カルベキニ付軍事普及部ヨリ頒布シツツアル時局關係冊子竝ニ資料ヲ利用スルコト

六、講演官ニ支給スベキ旅費ハ左表ノ通トシ旅順要港部及駐滿海軍部ヨリ派遣セラルル者ノ外昭和七年官房第九八八號ニ依ルコト

尙旅行日數ハ實際所要ノ最少限度ヲ以テスル等ノ

海軍公報 第三千二百九十四號 昭和十三年三月二十四日

一三七

海軍公報 第三千二百九十四號 昭和十三年三月二十四日

二二八

方法ニ依リ成ルベク多數ノ講演官ヲ派遣シ部外ヨリノ希望ニ應ズルコト

講演官派遣旅費 (旅費ノ數目ニ付テハ海軍省經理局ヨリ別ニ通知ス)

配付先	配付額
横須賀鎮守府	一、四五〇 (所管地方海軍人事部旅費ヲ含ム)
吳鎮守府	一、三五〇 (所管地方海軍人事部旅費ヲ含ム)
佐世保鎮守府	一、三五〇 (所管地方海軍人事部旅費ヲ含ム)
大湊要港部	三〇〇 (青森縣以外講演官派遣旅費ヲ含ム)
舞鶴要港部	三〇〇 (京都府以外講演官派遣旅費ヲ含ム)
鎮海要港部	四〇〇
馬公要港部	三〇〇
旅順要港部	二〇〇
駐滿海軍部	二五〇
海軍省	六〇〇
計	六、五〇〇

官房第一四二二號

昭和十三年三月二十三日

海軍次官

内務、文部、遞信、司法、鐵道、農林、拓務 各省次官殿

海軍記念日講演ニ關スル件照會

來五月二十七日ハ海軍記念日ニ相當致候處本記念日ハ既ニ逐年全國民的ノモノトシテ迎ヘラルルニ至リ各地學校、團體等ニ於テ種々記念行事舉行ノ趣承知致居候ニ付テハ御要望ニ應ジ海軍ヨリモ別記ニヨリ講演官ヲ派遣可被致候條此ノ旨關係各部ニ通牒方御配慮ヲ得度

記

一、講演官ノ派遣區分ヲ別表ノ如ク定ム但シ人員ノ都合ニヨリ若干ノ變更アルベシ
 講演官派遣ニ要スル費用ハ海軍ニ於テ之ヲ負擔ス
 二、聽講者ハ成ルベク中等學校程度以上生徒、青年學校生徒、青年團員、一般有志等ヲ主體トスル様希望ス
 三、講演日ハ五月二十七日及二十八日ノ兩日トスルモ情況ニ依リ二十六日二十九日ニテモ差支ナキニ付各府縣廳ニ於テ適宜場所及日時ヲ統制セラレ一括シテ

四月二十五日迄ニ別紙様式ニ依リ(二通)講演官派遣申請先(別表参照)ニ申込相成度
 四、人員ノ都合上要望ノ全部ニ應ジ難キコトアルベキハ豫メ諒承ヲ得度尙講演官ヲ派遣シ得ザル各學校ニ於テハ學校長其ノ他ニ於テ記念日ニ相應スル訓話ヲ爲サルルコトハ最モ希望スル所ニ有之候
 (別表及別紙添)

航本第一三七五號
 海軍造船機造兵主要材料試験検査規則〔航空機之部(假規格)〕中左ノ通改正ス
 昭和十三年三月二十二日

海軍航空本部長
 一、假規17、一三〇疋ニツケル・クロム鋼管3、試験ノ項
 (一) 抗張試験中〔抗張力(kg/mm²) 130~150〕ヲ
 「抗張力(kg/mm²) 125~145」ニ改メ

○ 雜 款

○學生入校期日
 近ク任命豫定ノ本校高等科學生ハ四月七日始業式ニ付

其ノ前日迄ニ入校セシメラレ度
 (海軍軍醫學校)

海軍公報 第三千二百九十四號 昭和十三年三月二十四日

(別紙一葉添)一二九

(別表)

(昭和十三年三月二十四日公報別紙)

艦隊	駐滿海軍部	旅順要港部	馬公要港部	鎮海要港部	舞鶴要港部	大湊要港部	高松地方海軍人事部	佐世保鎮守府	金澤地方海軍人事部	大阪地方海軍人事部	吳鎮守府	札幌地方海軍人事部	横須賀鎮守府	海軍省	講演官派遣先	講演官派遣地
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	佐世保鎮守府 高松地方海軍人事部	同上	舞鶴要港部 金澤地方海軍人事部	吳鎮守府 大阪地方海軍人事部	同上	大湊要港部 札幌地方海軍人事部	同上	海軍省	講演官派遣地	東京府 埼玉縣、栃木縣、千葉縣、茨城縣、神奈川縣、群馬縣、 静岡縣、山梨縣、長野縣、岩手縣、宮城縣、秋田縣、 山形縣、新潟縣、福島縣 北海道、樺太 愛知縣、岐阜縣、三重縣、滋賀縣、兵庫縣、岡山縣、 廣島縣、山口縣、島根縣、鳥取縣 大阪府、奈良縣、和歌山縣 福井縣、石川縣、富山縣 福岡縣、大分縣、佐賀縣、長崎縣、熊本縣、宮崎縣、 鹿児島縣、沖繩縣 徳島縣、香川縣、愛媛縣、高知縣 青森縣 京都府 朝鮮 臺灣 關東州 滿洲國 所在地及適宜附近

(別紙)様式

海軍講演官派遣申込書

日	時刻	主催	講演場所	聴衆(員数)	最近海軍講演日	希望題目	記事
二七	自前九時 至十一時	聯合青年團	區、青年學校	團員及青年 四〇〇	一二、五國際情 勢、帝國海軍		校隣、區、小 下、車、米、停 留場
二七	自後一時 至三時	市中(女) 學校	同上校講堂	職員及生徒 一〇〇	一二、八 艦内生活		車、便、丁、自 動、車、ア、リ
二七	自後七時 至九時	郷軍分會長	公會堂	郷軍及一般 八〇〇			自、動、車、下、車、電、車 ノ、便、ア、リ

海軍公報 第三千二百九十五號

昭和十三年三月二十五日(金)
海軍大臣官房

○ 辭令

志村 雪男

横須賀海兵團ニ於ケル齒科治療ヲ囑託ス
但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(海軍省)

野田 律夫

横須賀海軍病院ニ於ケル醫療業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(海軍省)

海軍技手 加藤 梅次郎

給三級俸

海軍警査 近藤 宇太郎

月俸八拾圓ヲ給ス

海軍技手 加藤 梅次郎

依願免本官

海軍警査 近藤 宇太郎

願ニ依リ海軍警査ヲ免ス(以上海軍省)

吉田 敏夫

海軍兵學校ニ於ケル劍道教員ヲ囑託ス
但シ報酬月額六拾五圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ待遇セラル(海軍兵學校)

○ 雜款

○宿所變更
海軍艦政本部第五部長海軍造機中將福間忠藏宅
東京市世田谷區太子堂町三四五

海軍公報

第三千二百九十六號

昭和十三年三月二十六日(土)
海軍大臣官房

○ 辭 令

海軍主計特務大尉 早川 一平



海軍軍事普及事務囑託ヲ解ク

海軍兵學校ニ於ケル劍道教授囑託

三谷復太郎

自今報酬年額貳千參百圓ヲ給ス(以上海軍省)

兼海軍工廠工員教育所教務囑託 宮原 治之

兼海軍技手養成所教務囑託ヲ解ク(三十五回同)

○ 雜 款

○ 學生入校

本校高等科學生ハ四月四日始業式ニ付其ノ前日迄ニ着任セシメラレ度

(海軍通信學校)

海軍公報 第三千二百九十六號 昭和十三年三月二十六日

(號外十頁添)二三三

海軍公報 號外

昭和十三年三月二十六日(土)
海軍大臣官房

○通牒

經契第三號ノ二八六

昭和十三年三月八日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

輸入鉛地金統制契約ノ件通牒

海軍用輸入鉛地金入手ノ確實ヲ期スル爲メ左記ノ通り
三井物産株式會社ト契約致候條可然處理相成度

記

契約書

海軍省經理局長村上春一(以下甲ト稱ス)ハ海軍各廳
及海軍註文工事受註ノ民間工場(以下丙ト稱ス)ニ於
ケル所要ノ鉛地金(以下本品ト稱ス)ニ就キ昭和十三
年十二月三十一日迄ニ註文スルモノノ供給ニ關シ三井
物産株式會社代表取締役井上治兵衛(以下乙ト稱ス)
ト契約スルコト左ノ如シ

海軍公報 號外

第一條 海軍各廳及丙ニ於テ直接海軍註文工事ニ要ス
ル鉛地金ニシテ輸入ヲ要スルモノハ特殊ノモノ及既
契約ノモノヲ除キ各其ノ要求ニ基キ乙ヨリ供給スヘ
キモノトス

第二條 乙ハ前條ノ供給ヲ確保スル爲メ甲ノ指示ニ從
ヒ輸入買付ヲ行ヒ供給ニ支障ナキ數量ヲ常時保有ス
ルモノトス

第三條 乙ノ保有供給スヘキ品種ハアメリカンズメル
ティング・エンデュレンツ・アイ・インダストリー社(A. S. & P. Co.)
製造ニ係ル Asarco 印 Selby 印及 Monterey 印ノ三
種トス

前二者ハ海軍艦政本部制定ノ購買物品検査規格「第
一號乃至第四號」何レニモ合格シ Monterey 印ハ日
本標準規格「特號」ニ合格スルモノトス

第四條 供給單價ハ甲ト乙トノ間ニ於テ三ヶ月毎ニ協
定スル價格ニ據ルモノトス但シ買付價格ニ著シキ變
動アリタル場合其他必要アル場合ニハ三ヶ月ニ滿タ

サルモ之カ變更ヲナスモノトス

第五條 海軍各廳ニ於テ本品ノ供給ヲ受ケントスル
キハ註文書(様式甲)ヲ乙ニ送付スルモノトス

第六條 乙ハ前條ノ註文書ヲ受領シタルトキハ承諾書
(様式乙)ヲ註文者ニ提出スルモノトス

第七條 丙カ本品ノ供給ヲ受ケントスルトキハ品名、
規格、數量、納期及納入場所其ノ他必要ナル事項ヲ
記載シタル註文書二通ヲ作製シ充當工事契約擔任官
ノ證明ヲ得テ一通ヲ乙ニ他ノ一通ヲ證明應ヲ經テ甲
ニ送付スルモノトス

第八條 本品納入地ニ到達シタル時ハ受領者ハ必要ト
認ムル検査ヲ行ヒ之カ引渡ヲ受クルモノトス

第九條 乙ハ本品ノ納入ヲ終リタルトキハ内譯明細書
ヲ附シタル代金請求書ヲ註文者ニ提出スルモノトス
分割納入ノ場合ニアリテハ前項ニ準シ請求書ヲ提出
スルモノトス

第十條 海軍各廳ニ納入シタル本品代價ニ對シテハ前
條ニ依リ代金請求書受領後十五日以内ニ當該支出官
ニ於テ支拂ヲ爲スモノトス但シ海軍契約規程第六條
ニ依ル減少金ハ之ヲ免除スルモノトス

丙ノ註文ニ對スル本品代金ハ丙ヨリ直接乙ニ支拂フ

モノトス

第十一條 乙ハ當該支出官ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ
本契約ニ因リテ生スル官ニ對スル債權ヲ第三者ニ讓
渡スルコトヲ得サルモノトス

第十二條 乙ハ本契約ニ關シテハ軍事上ノ秘密ヲ嚴守
スルノ義務アルモノトス

第十三條 本契約ニ明掲ノ外ハ大正十一年四月海軍省
令第十一號海軍契約規程並ニ海軍契約規程施行手續
ニ據ルモノトス

右契約ヲ證スル爲メ本書二通ヲ作製シ雙方記名調印シ
テ各其ノ一通ヲ保有スルモノナリ

昭和十三年三月八日
海軍省經理局長 村上 春一
三井物産株式會社
代表取締役 井上 治兵衛

經契第三號ノ二八七
昭和十三年三月八日
海軍省經理局長

關係各廳長殿
輸入餘地金需給ニ關スル件通知

(別紙様式二頁添)

關係各廳長殿

輸入餘地金需給ニ關スル件通知

昭和十三年三月經契第二八六號通牒ニ依ル三井物産株式會社ヨリ供給ヲ受クベキ輸入鉛地金ノ需給ハ別紙要綱ニ準據シ可然處理相成度

(別紙四頁添)

海軍用輸入鉛地金需給要綱

- 第一 海軍用鉛地金ニシテ輸入ヲ要スルモノハ海軍各應並ニ民間海軍註文工事受註者(以下丙ト稱ス)ニ於テ既契約ノモノ並ニ特殊ノモノヲ除キ一切三井物産株式會社(以下乙ト稱ス)ヨリ供給ヲ受クルモノトシ、乙以外ニ對シテハ海軍用鉛地金ノ輸入證明ヲ與ヘサルモノトス
- 第二 乙ハ右供給ヲ確保スル爲メ海軍省經理局長(以下甲ト稱ス)ノ指示ニ從ヒ輸入買付ヲ行ヒ月額壹千兩ノ鉛地金ヲ輸入保有ス
- 第三 乙ハ前項ノ鉛地金ヲ海軍各應及丙以外ニ對シ賣却セサルモノトス
- 第四 第二項ノ保有量ハ毎月荷捌ノ狀況ニ應シ供給ニ支障ナキ限度ニ安テ甲ノ承認ヲ經テ之ヲ減スルコトアルヘシ
- 第五 供給單價ハ概ネ左ノ方針ニ據リ三ヶ月毎ニ甲乙

間ニ協定ス

(イ) 海軍各應納メノモノ

橫濱又ハ大阪着製造家提供ノcifヲ一・〇一六ヲ以テ除シ佛噸買付價格ヲ決定シ之ヲ送金爲替相場ヲ以テ換算シタル邦貨額ニ輸入税額及所要金利ヲ加算シタルモノニ對シ買付電信料、其ノ他トシテ貳步ヲ加算シ東京、橫濱又ハ大阪河岸着迄ノ船賃ヲ併算シテ東京、橫濱又ハ大阪河岸渡價格ヲ求メ更ニ納入場所迄ノ運賃ヲ加算ス

但シ海軍各應納メノモノハ本船橫濱又ハ大阪着以前配給先及數量ヲ決定シ乙ニ通知スルヲ原則トス

(ロ) 丙ニ配給スルモノ
前號河岸渡價格ニ更ニ荷渡ニ至ル迄ノ倉出入諸費、倉敷料、買付後代金回收ニ至ル迄ノ金利見込平均額ヲ加算ス

第六 甲ハ昭和十三年十二月末迄ノ所要概量ヲ乙ニ提示ス

第七 海軍各應及丙(監督官經由)ハ前項ノ資料ヲ別紙様式第一ニ據リ速ニ海軍艦政本部ニ通知スルモノトス

第八 註文方法及報告ハ左ノ通りトス

海軍公報 號外

三

- (イ) 海軍各廳所要ノモノ
所要應ニ於テ直接三井物産株式會社ニ註文スルモノトス
但シ發註ト同時ニ註文書寫一通ヲ海軍艦政本部ニ送付スルモノトス
- (ロ) 丙所要ノモノ
供給ヲ受ケントスル者ニ於テ發註應別ニ別紙様式第二ノ註文書ヲ作製シ充用工事明細書ヲ添ヘ管區監督官ヲ經テ當該契約擔任官ノ證印ヲ受ケ乙ニ申込ムモノトス 但シ證明ト同時ニ註文書寫各一通ヲ證明應ヨリ海軍艦政本部ニ送付シ充用工事明細書ハ證明應ニ留置クモノトス
海軍註文ノ納期確保ノ爲メ丙ノ受註工事確定以前ニ於テ一定量ノ鉛地金ヲ丙ニ保有セシムル必要アル時ハ丙ノ註文書ニ管區海軍監督官及關係契約擔任者ニ於テ意見ヲ付シ海軍艦政本部ニ送付シ同部ニ於テ證明ヲ與フルモノトス
註文者供給ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク別紙様式第三ニ據リ管區海軍監督官及證明應ヲ經テ受給報告書ヲ海軍艦政本部ニ送付スルモノトス
- (ハ) 海軍各廳又ハ丙ニ於テ Monterey 印ノ註文ヲナ

サントスル場合ニハ別ニ納期三箇月前迄ニ艦政本部ニ豫報スルモノトス

第一〇 乙ヨリ丙ニ供給セシメタル鉛地金ハ丙ヲシテ海軍註文工事以外ノ工事ニ使用セシメサル如ク海軍監督官ニ於テ丙ノ使用ヲ嚴ニ監督スルモノトス 海軍各廳及海軍監督官ハ相互ニ右ニ必要ナル連絡ヲ保持スルモノトス

第九 丙註文ノ證明ニ當リテハ國內資源並ニ輸入爲替割當ノ充分ナラサル點ヲ考慮シ過剩ノ證明ヲ與ヘザル様證明者ニ於テ充分注意スルモノトス

1060

注文書番號

輸入鉛地金充用工事明細書

會社名

種目	數量	充用工事				鉛配給率 %	備考
		海軍發註番號	品名	製品重量	鉛重量		

(昭和十三年三月十六日公報號外別紙)

1061

(様式第11)

統制契約輸入鉛地金受給報告

會社名

品 種	數 量	充 用 工 事 名		註文年月日	受給年月日	受渡場所	備 考
		海軍發註番號	工 事 名				

1063

様式乙(美濃紙半葉)

番 號

昭和 年 月 日

三井物産株式会社

〃〃〃海軍工廠 御中

輸入鉛地金註文承諾書

但シ履行期限ハ本表申出通御承認被下度願上候

契約番號		履行期限	指定		
註文年月日			申出		
用 途		履 行 場 所			
品 名	摘 要	數 量	代 價	單 價	備 考
計					
記 事					

1065

(様式11)

書類
番 號

年 月 日

統 制 契 約 輸 入 鉛 地 金 註 文 書

會 社 名

三 井 物 産 株 式 會 社 御 中

昭和十三年三月八日經契第三號ノ二八七配給條件承認ノ上下記ノ通り供給方申込候也

品 種	數 量	納 期	引 渡 場 所	用 途	備 考
	匁				

以上ハ海軍註文品ニ對スル所要品ニ相違ナキヲ以テ供給方取計相成度

昭 和 年 月 日

充用工事契約擔任官名 ㊤